

食品ロス削減へ学生が取り組む「Kyo 0 market」

キョーゼロマーケット
龍谷大学深尾ゼミナール「かんきょうと」(京都府)

「Kyo 0 market」は、多くの食品が手付かずのままゴミになる現状について、「もったいない」という想いを伝える啓発イベントです。龍谷大学深尾ゼミナール（以下「深尾ゼミ」という。）では、学生たちが平成29（2017）年11月に府内のリサイクル施設を見学し、まだ食べられる食品が捨てられる現状を目の当たりにしたことをきっかけに、学生たちが自ら考え行動する「かんきょうと」プロジェクトを立ち上げ、「Kyo 0 market」の取組を開始しました。深尾ゼミの学生を中心に、大学周辺地域の方々も巻き込んで、食品ロスの削減に取り組んでいます。

イベントでは、何もしなければ捨てられてしまう賞味期限前の食品を集めて、来場者に無料で提供する「もったいないスーパー」、小学生向けの、クイズ形式でリサイクル素材などを学ぶ「食ロスかるた」、食品ロスになる可能性のあったお茶を飲みながら、学生が来場者に食品ロスや生ゴミ対策等について紹介する「エコカフェ」等を行っています。「もったいないスーパー」では、使わなかった原因や食品ロスの豆知識を書いた付箋紙をそれぞれの商品に貼るなど、ただ商品を持ち帰るだけでなく、来場者に食品ロスに対する理解を深めてもらえるような工夫をしています。

令和元（2019）年10月には9回目となるイベントを開催し、小学校や幼稚園にチラシを配布するとともに、大学周辺地域以外の方々に対しても、ポスティング、ラジオ番組、SNSなどで呼びかけを行いました。その結果、1,100品以上の食品が集まり、これまでの取組の中でも最大規模のイベントとして開催することができました。このような取組の結果、平成30（2018）年度から令和元（2019）年10月までの計9回のイベントで、食品2,492品、総エネルギー378万キロカロリー、総重量448 kgの食品を廃棄せず食品として循環させることができました。

「もったいないスーパー」の取組がメディアで取り上げられたことにより、食品回収に区役所の協力が得られたり、行政側から地域のイベントへの出展を提案されたりするなど、取組の輪が確実に広がってきていると感じています。今後も、学生が主体となり、食品ロス削減の取組を進めていきたいと考えています。



「もったいないスーパー」に取り組む学生たちと陳列された食品



「食ロスかるた」で遊びながら食品ロスについて学ぶ子供たち